

めぐみ在宅地域緩和ケア研究会



NEWS LETTER

2020.12月 NO. 159

めぐみ在宅クリニック（在宅療養支援診療所）

〒246-0037 神奈川県横浜市瀬谷区橋戸2-4-3

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

いのちの授業の講師になりませんか？

「自分が誰からも必要とされていないという苦しみがあると授業で話されていました。この話は自分のことを言っていると思いました。

中学校の時にあって、死にたいと思っていました。そんなとき、私の思いをわかってくれる友人がいました。とてもうれしかったことを思い出しました。

今日の授業をきいて、人間は、一人では生きていけないのだと思いました。

だから、今度は、誰かが苦しんでいたら、話をきいて、力になってあげたいと思いました。ありがとうございます。」

ある高校で、「いのちの授業」を行った後の感想文の1つです。コロナ禍で、人と人の距離が遠くなり、つながりが希薄になりつつあります。苦しみが大きいと、人は大切と頭でわかっているが、誰かを傷つけたり、自らを傷つけたりすることがあります。

たとえ大きな苦しみを抱えたとしても、人は穏やかに過ごせるのでしょうか？

看取りという現場で問い続けてきたテーマです。そして、答えはイエスです。

人は、苦しみの中にあっても、自らの支えに気づくとき、強く、そして優しくなることができます。それは、一部の人の起こす奇跡ではなく、私たち全員が持つ可能性です。

今の時期だからこそ、このテーマを伝える担い手を育てていきたいと思えます。

エンドオブライフ・ケア協会では、折れない心を育てるいのちの授業の講師養成を行っています。2年前には講師は私一人でした。2019年8月に、講師養成プログラムを開発し、育てる仕組みを作りました。すると、今では認定講師が70人まで増えました。

奄美大島大和診療所の小川先生もその一人です。先生の取り組みは、2020年12月ヤフーニュースで取り上げられました。沖縄県中部病院の長野先生もその一人です。先生の取り組みも地元の新聞に掲載されました。着実に輪は広がっています。もし、よろしければ、一緒に伝えていきませんか？

詳細はエンドオブライフ・ケア協会のHPまで。

(小澤竹俊)

これからの未来を考え一日を大切に

新型コロナ感染は第3波を迎えました。政府からはGo-Toキャンペーンを一時停止する発表がありました。特に、ぜいじゃくな高齢者への感染拡大は、死亡者の増加として、厳しい結果が予想されます。それだけではなく、受け皿の急性期病院のベッドが逼迫すれば、治すことができる疾患に対して対応できず、まさに医療崩壊となる危険性があります。

超高齢少子多死時代対策は、ひとえに医療崩壊対策でもありました。感染症は1-2年で収束するかもしれませんが、人口動態の変化による医療崩壊は、恒久的な課題です。

2020年のインフラは、そのまま2040年までは通じません。高齢者が増える一方、生産年齢人口は減る一方です。病院のベッド数も減り、エコシステムは崩壊していくことは、自明です。

コロナ禍で騒がれている医療崩壊は、日本の近未来の予想図でもあります。

今後、日本の超高齢化がどのように進んでいくのか、地域はどのように変わっていくのか、その中で、ヘルスケア専門職やその他の職域、地域の方々には医療とどのような関係性を目指すべきなのでしょう？

コロナ禍の中で、その先を見据えて、一日一日を大切にしていきたいと思えます。

診療実績

	2006- 2019年	2020年 1-8月	9月	10月	11月	2020年 計	総計
訪問回数	81,109	5,413	661	704	679	7,457	88,566
自宅永眠	2,470	120	18	21	19	178	2,648
施設永眠	409	40	3	6	5	54	463
在宅 (自宅+施設)	2,879	160	21	27	24	232	3,111
病院永眠	794	46	4	11	6	67	861